

神は垂るるに祈禱を以て先と為し

冥は加ふるに正直を以て本と為す

『倭姫命世紀』

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

神より御恵みを授かるには
祈りと正直が第一である

神道知識への誘ひ「浄明正直」

「浄明正直」とは清き（浄き）、明き（明るい）、正しき、直き（素直な）心のことです。神道の根本を表わす言葉の一つです。古事記や日本書紀にも現在の「善」を表わす言葉として「ぎよき」「あかき」などの言葉が多く登場することから、古来より私心の無い清らかな澄んだ心が個人や社会にとって重要とされてきた事がわかります。神道において人は本来、浄明正直な神様の御心のまま清らかな心を持つと考えます。しかし澄んだ鏡でも放置すると曇ってきてしまうように、人も日常生活を送るうちに

その心から離れていってしまうものです。その心をもとの浄明正直な心に立ち返る為に行なうのが「祓い」です。祓いは神様の御恵みによって清められると同時に人が主体的に浄明正直な心に戻るものです。六月には祓いの行事の一つである夏越大祓が多く神社で斎行されます。この半年に一度の大祓を修められ、浄明正直な心に立ち戻り、曇りなき眼で物事を見極め偽りのない行動を以てより良き社会を目指したいものです。

